

住民の声

地域で頑張っている方たちの声をお聞きしたく、今回は、大方橋川地区をある尋ねしました。

大方橋川部落は、大方地域の八丁山の北側に位置し、戸数は12戸、人口18人の小集落です。

区の皆さんにより、20数年ぶりという「轍立て」が賑やかに行われていました。

この地区では、毎月第2日曜日に、下田の口にある大規模公



地域の守り神「天満宮」



くい打ちを頑張るお父さん(上)と
のぼりをバックに満足顔のご当人(右)



園の体育館そばにて開かれている「海辺の日曜市」に参加し、地元で採れた野菜や手作りの食べ物などを販売しているとのことです。

また、毎年11月3日には、「コスマスまつり」を開催し、地元産のコンニャク、お味噌、お餅などの販売の他、みんなで栽培したもち米によるお餅投げもあるとのことで、是非、お出で下さいとのことでした。



狛犬の見守る中、田ごしらえも進む大方橋川集落周辺

宮川区長の声

当部落は、高齢化率が67%ほどと非常に高い上、一人暮らし世帯が7戸あるなど、集落環境には厳しいものもあります。

一方、少子・高齢化による地域の衰退は、全国的な課題であります。当部落のような小集落では、そのことがより深刻な課題となってきたおり、このことは、稻作などでもその耕作面積の多少にかかわらず、みんなが自

分の作業としてやつていいことにも感じられ、この地域性は、今後も大事に残さなければと思っています。

一方、少子・高齢化による地域の衰退は、全国的な課題であります。当部落のようない集落では、そのことがより深刻な課題となってきたおり、このことは、稻作などでもその耕作面積の多少にかかわらず、みんなが自

少子・高齢化は、全国的、かつ大きな課題ですが、このことは、この「住民の声」の取材などでも、痛感させられました。他方、そうした環境の中、地域の皆様が支え合い、日々の暮らしを豊かなものにしている姿に接することが出来て、逆に大きな力を頂くことも度々ありました。

この委員会体制での編集は、今回で最後となりましたが、次回からの新委員会に、更に分かり易く親しみやすい「議会たより」を期待すると共に、住民の皆様により一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、筆をおきます。

議会広報常任委員会

委員長 宮川 徳光
副委員長 藤本 岩義
委員 池内 弘道
坂本 あや
森 宮地
治史 葉子

広報委員一同